

連携・協働のカ・タ・チ

令和3年12月16日発行 福島県教育庁会津教育事務所



学校と地域のよりよい連携・協働を目指して

＝ 会津若松市「地域学校協働活動運営会議」の取組 ＝

会津若松市地域学校協働本部（会津若松市生涯学習総合センター）は、「地域学校協働運営会議」を定期的に開催し、各地域学校協働本部の運営についての検討、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の資質向上を図るための研修や情報交換を実施しています。

今回は、第4回運営会議（令和3年11月26日開催）の際に実施した研修会の様子を紹介します。

研修内容

- 〈講義〉 「社会に開かれた教育課程」の実現とコミュニティ・スクールの今
- 〈演習〉 熟議「地域学校協働本部の取組について」（成果・課題・改善策等）
- 〈講師〉 福島県教育庁会津教育事務所 主任社会教育主事



地域学校協働活動推進員の皆さんは、日頃の悩みや課題等について出し合い、学校との連携のあり方について熱心に考えておられました。

学校の先生方とこのような熟議や情報交換の場を設けることができれば、連携が進むのではないかと感じました。



【演習「グループ熟議」を行う地域学校協働活動推進員等の皆さん】

地域学校協働活動推進員の役割と職務

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の役割

学校と地域をつなぐキーパーソンです。地域側の窓口としてボランティアと連絡調整しながら、地域連携担当教職員と連携し、学校支援活動等の実施と充実に努めます。

◆学 校



教職員

校長

地域連携担当教職員

◆地 域



地域住民等



地域学校協働活動推進員
(地域コーディネーター)

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）は、学校のニーズや地域住民の思いを拾い集め、地域住民の参加を得ながら活動へと結び付けます。

- ① ニーズや思いの把握
- ② 活動の調整及びマッチング
- ③ 活動に関わる情報の収集・発信
- ④ 活動の提案 などが主な職務です。

学校と連携を進める上での問題や課題

演習「模擬熟議」では、うまくいっている地域学校協働活動の取組や学校と連携・協働を進める上での問題や課題となっていることについて話し合い、その解決・改善策について考えました。地域学校協働活動推進員の皆さんが、学校と連携する上で感じている主な問題や課題は次のとおりでした。

- 学校の先生方との顔が見える関係づくり
- 学校側との話し合いの場を持つこと
- 学校のニーズや要望を把握すること
- 地域連携担当教職員との円滑な連絡・調整
- 活動の打合せをする場と時間を設けること
- 学校の教育活動や年間のカリキュラムを知ること
- 地域学校協働活動について先生方の理解を得ること

これらの課題がクリアできれば…



地域学校協働活動推進員

一番重要なのは、コミュニケーション！

～地域学校協働活動推進員と学校の両者が対等に話し合える場作りを～

地域学校協働活動推進員と学校が対等になって、はじめて「協働」が生まれます。

しかし、学校側と「いつ」「どのように」コミュニケーションを図ればよいか分からず、悩んでいる地域学校協働活動推進員の方が少なくありません。

連携・協働をよりよく進めるためには、情報交換はもとより、互いの思いを分かち合い、話し合えるコミュニケーションの場を設けることが重要です。

